



「陸修会」の設立について

理事長 森 勉

令和4年4月27日グランドヒル市ヶ谷において陸自幹部退官者の会である「陸修会」（旧RO会）設立の記念式典が実施されました。防衛省職員退官者の会は、防衛省全体の隊友会、海自の水交会、空自のつばさ会等が既に長年に亘って活動していますが、陸自は昭和29年創隊以来約70年にして「陸自特に幹部自衛官を通じての必要な協力及び支援、殉職隊員の慰霊顕彰等を行うと共に防衛基盤の強化拡充を図るなど陸自の発展に寄与し、併せて会員相互の研鑽及び親睦を図る」ことを目的とした自らの会である「陸修会」を設立されました。

偕行社は、戦前士官学校卒業生の現役・予備役・退役全ての将校の会として陸軍を長きに亘って支えてきましたが大東亜戦争の敗戦により陸軍と共に解体され、戦後有志によって復活しました。平成に入り高齢化による会員数の減少に対応するため自衛隊幹部退官者に会員資格を拡大すると共に活動をより有意義なものとするため公益財団法人の認定を受けました。令和に入り世代交代は最終段階となり偕行社の持続的かつ効率的な運営のため、陸自幹部退官者との緊密な連携に

よる会勢の拡大、英霊の慰霊顕彰等の公益事業の積極的な実施、会員相互の研鑽・親睦等について抜本的な改革を推進しています。

諸外国の独立記念日等の式典では年老いた軍人が参列している姿を見かけますが、将校には退役後も階級の呼称、制服の着用、恩給の受給などが認められ生涯軍人であり続けるため同窓会を組織するという概念は無く、退役・予備役等の軍人は半ば公的な在郷軍人会等によって管理されています。一方現在の偕行社は現役の存在しない究極的な同窓会的性格を有し、自衛官も又特別職の国家公務員であり退職後は国家防衛の権利や義務から解放され一国民となるため退官者の会は必然的に同窓会的な性格を持つた組織となります。

現在、偕行社は陸自幹部退官者有志の会員等によって運営されていますが、今後は「陸修会」によって組織的に継承できる可能性があります。陸軍は建軍以来国家の脊柱として重きをなし一方陸自は憲法上存在そのものが不安定でありその社会的立場には大きな隔たりがありますが、いずれも陸軍種の退官者の同窓会的組織であるという境遇を共有しています。今後は偕行社と「陸修会」との間において一年程度を目処に合同に向け協議を始めたかと思っております。会員の皆様には偕行社の将来のためにご理解・ご協力をお願い致します。